

令和2年度環境・食育校種間連携パートナーズクール事業

## 6次産業化から地域の未来を考える

令和2年10月16日（金）、府立須知高等学校において令和2年度第1回環境・食育校種間連携パートナーズクール事業を実施しました。

今年度は「6次産業化から地域の未来を考える」をテーマに、京丹波町立瑞穂中学校、府立須知高等学校、京都大学大学院が連携をして取り組みます。

前半は、京都大学大学院生から「第6次産業化とは何か」、須知高校教員から「第6次産業化の取組」をテーマに具体的な事例を挙げながら説明を受けました。

後半は、グループ別活動として「穀物加工」「園芸加工」「乳肉加工」「公園管理」の4グループに分かれ、高校で採れた食材等を活用した新たな付加価値を生み出す取組について体験実習をしました。

「穀物加工」グループでは、高校で栽培された小麦やトマトを使ったピザ作り、「園芸加工」グループでは、高校で栽培されたブルーベリーや栗を使ったジャム作り体験を通してそれぞれの農産物の活用について学びました。「乳肉加工」グループでは、牛乳からチーズを精製するときに廃棄されるホエーを活用したシャーベット作りを通して乳製品がどのように出来るのかその仕組みについて学び、「公園管理」グループでは、薪を割ったり、森を散策しながら森林管理について説明を受けたり、木の実や山菜を採集するなどして、森や自然の活用方法について学びました。

中学生たちは慣れない作業に戸惑いながらも意欲的に取り組んでおり、高校生は教えることの難しさを感じた様子でしたが、それぞれに新たな発見や気づき生まれた充実した一日となりました。



廃棄されるホエーを使っていろいろなものを作ることが分かり、すごいと思いました！

今回は2次産業だけだったが今度は6次産業をやってみたい！

